

良知を磨き、愛敬の心と 高い志を育む教育をめざして

前安曇小学校長 高木 淳

豊かな心と自ら学び考える意欲をもち、
心身ともにたくましい安曇っ子の育成

安曇小学校の子どもたちは明るく素直で、人の話もしっかりと聞き、挨拶もできるとなりました。

上記の学校教育目標をもとに藤樹先生の教えに学び、よりよく生きようとする態度の育成と、子どもたちに高い志を育む教育をめざしてきました。

一、学力の向上をめざす

研究主題「『ことば化』

する学び」を設定して子どもたちが自分の思い・気づきを自分のことばで表現する場を大事にし、全教員が全教科・領域を対象に、年間二回の研究授業を実施して思考力・表現力の向上をめざしてきた。安曇小学校の特色であるリバーウォッチング活動（生活科・総合的な学習）においても教科学習による積み上げを生かして探求活動を展開している。子どもたち同士が互いのよさを生かして学び合い、切磋琢磨することで良知を磨くことができればと取り組んでいる。その成果を一月の安曇っ子博物館で保護者や地域に公開をしている。また、「安曇小家庭学習の手引き」を活用できるように

に家庭学習カードを用いて家庭学習強化週間を設定し、学力の向上に努めている。

二、豊かな心、愛敬の心を養う

安曇小学校では、藤樹先生に学ぶ機会の一つとして、道徳においても各学年、年間計画に位置づけ、愛敬の教えに基づく心の教育、生き方の教育を展開している。また、図書室には、藤樹先生のコーナーを設けて、教えに親しめるよう配慮をしている。

毎月、人権の日を設定して、人権担当教員が全校放送で詩を朗読し、子どもたちに思いやりの心や差別を許さない心を育みたいと取組を進めている。詩の朗読のあとには、聞いた感想を担当が子どもたちから引き出すなどして人権感覚を磨いている。

シリーズ⑤ 「伝え継ぐ藤樹先生」

人権週間における集会では各クラスの代表の子どもたちが人権学習の感想を述べるとともに、校長講話で、アインシュタインが来日したときに感謝を受けた「姥捨て山」の母の心、自分を見捨てようとしている息子を最後まで心配する摂取不捨の心、思いやりの心を育むという観点では、福祉体験学習の充実にも努めている。聴覚、視覚障害、肢体不自由の方

を招いて、体験を通して学習ができる機会を設け、自分の生き方を見直し、相手の立場に立って物事を考えることの大切さを学んでいる。

三、知行合一、たくましさを養う

平成二十六年度は児童会運営委員が考え出した「みんなが仲良く笑顔で助け合える学校」のテーマのもと、あいさつ運動や困り事アンケートに基づく「仲良くしよう呼びかけ隊」による啓発や「廊下歩行」「靴そろえ、トイレのスリッパそろえ」等運営委員自ら率先して行動し、全校児童に浸透するように訴えた。あいさつにしても靴そろえにしても、よいことをしようと思っっているうちは、本物ではない。自分から進んで行なうことが気持ちよくなり、よいことをしようと思うまでもなく行動できてこそ「知行合一」ということが言えると集会毎に訴えてきた。平成二十五年年度「高島掃除に学ぶ会つどい」には、卒業を前にした六年生も参加し、トイレ掃除の大切さと一生



トイレのスリッパそろえ

懸命に努力することの素晴らしさを感じてもらった。

四、豊かな情操と高い志を育む

「文化芸術による子どもへの育成事業」（文化庁主催）でピアノトリオを迎えて、演奏を中心とした授業を展開している。こ



ピアノトリオの伴奏で校歌を歌う

の事業は、三年生と五年生が、体育館やホールではなく、身近に楽器等に触れることができる。この活動を通して、ヴァイオリンを弾く体験をしたり、トリオの息づかいや表情を間近に感じ取ったりと、音楽のよさや素晴らしさを体感している。授業の最後には、ピアノトリオが音楽家をめざして描いてきた夢についても語ってもらい、自分の夢を大きく描き、努力することの大切さを訴えてもらった。授業後の子どもたちの感想にも、「私の夢は医者です。プリマヴェエラの皆さんのようにがんばります。」「ぼくは作曲家になりたいです。」「このように、子どもたちが、優れた本物の芸術に触れることにより、豊かな情操を養うとともに、「志を育む教育」の推進ができると考えている。